

## ラマダンの完了に伴って

明: 美しき祝祭の日、それは神の称、人の修、そして 生まれぬ人々への配 なのです。

目: [「事崇行とその実践の五ヶ条」とその他の崇行](#)

より: ア イシャ ステイシ

日: 1 Jul 2014

集日: 24 Apr 2023



ラマダンの完了に伴い、イスラームにおける2大祝日の一つがもたらされます。それは、イ  
ドル＝フィトルという祝日です。イドとはアラビアで、「一定の期に繰り返されること  
」を意味します。イドというは、祝日を意味するようになりました。フィトルとは、  
イフタル（断食を解くこと）というの源であり、断食月の完了を示します。ムスリムた  
ちはラマダン月のわりに悲しみを感じるため、断食のわりを祝っているのだとめてか  
かることは、正しいとは言えないでしょう。事として、ムスリムがそれを祝うのは、  
神が彼らにそうすることをしたからであり、断食と精神的考察の一ヶ月の完了によるも  
のなのです。神の限りなき慈悲と智により、ムスリムたちの行いがめられ、もたら  
されることを期待して祝うのです。

“…これはあなたがたが定められた（断食の）期を全うして、きにし、アッラをえる  
ため、恐らくあなたがたは感ずるであろう。”（クルアーン2: 185）

イドは、一般的に考えられているような祝われ方とはなるかも知れません。前夜の月の状が目され、ラマダン了がされると、ムスリムたちは特別な日のを始めます。日の出前からムスリムたちは沐浴し、最善の服装をしてイド礼に出かけます。イドのために新しい衣服を着ることはとなっています。「神はお美しく、美しいものを好まれる。

」1

イドは、自らに与えられた神の恩を示すでもあります。また礼へと出かける前に、いくつかのデザートを食べることは崇行とみなされます。イドの日は祝祭日であり、神を想起する日でもあるため、イドの日に断食をすることは禁じられています。

イドの礼は、外ので行われます。天候、または外のが保出来ない状などから、にはモスク内でイド礼が行われることもあります。その日、ムスリムたちが礼用毯を片手に、神を称えながら礼へと徒しているのを目にすることが出来るかも知れません。彼らはこう唱えます。「神は大なり。神以外に崇にする者はなし。神は大なり。かれに称あれ。」ムスリム家族が礼のに集まり始めると、神への称に加え、祝の言「イドムバラク（祝福にちたイドを）」と、お互いへの祈の言「タカッバラッラフミンナワミンクム（アッラが私たちの善行をおめになりますように）」が交わされます。子供たちはプレゼントやご走への期待に走りまわり、大人たちはラマダンの成功に喜び、神の大きさに思いをせます。そしてイド礼が始まると、一に沈がまります。それは通常の礼とは多少なるもので、ではありませんが、ムスリムがそれに参加することは非常に推されます。ムスリムたちは肩をべて礼に立ち、ラマダンの幸せだけでなく、日の数えきれない程の祝福にして神に感します。

礼が始まる前には、特別な喜が支われます。それはザカトル=フィトルと呼ばれるもので、ムスリム一人一人が小さな（日本にしておよそ¥1,000）が支われ、それによって食料が入され、困者へと配布されます。ラマダンはムスリムたちが大に分け与えるであり、ラマダン了の祝は、すべてのムスリムたちがご走とお祝いをしむことが出来るよう、同じような大の精神に基づいてり行なわれます。

礼、人々は自宅や祝のに出かけます。ムスリムたちはイド礼からるときは、来たときとはの道を通ることによって、言者ムハンマドの行にいます。このことや、礼が外の

で行われることは、ムスリムの さを示し、信仰における りを促 し、公けにアッラ を称し、祝 することを目的とされています。イ ドル=フィトルそのものは一日ですが、多くのムスリム 国では、最大一 に渡り、 や店 は休日となります。 的制限や、西 国ではムスリムの祝日が必ずしも 知されているとは限らないことから、一部のムスリムたちは 数 のみの祝 となります。 なる国に住んでいたたり、 なる出身のムスリムたちは、 なった 祝い方をします。

まず朝食や昼食で、家族や友人たちは集います。それは や挨拶を通した、人々への 情を示す良い 会です。それは 去の を回 修正し、 を活性化させる です。特 な料理が振舞われ、 人や友人たちにも配られます。それぞれの国 地域には定番料理があり、西 国に住むムスリムたちは、世界中の美味な料理を味わうことの出来るよい 会を得ます。大人だけでなく、子供たちにも り物、お金、お 子などが与えられます。祝い方は地域によって なり、ピクニック、バ ベキュ 、パ ティ 、食事会、地域イベントなどが夜まで行われ、花火やレ ザ 光 が空をいろどります。新たな友人 が生まれ、古くからの は 睦を深め、家族は有意 な を ごします。

イ ドの祝日は、 族との触れ合い、 への孝行、困 者への思いやりと、 人 の 化を促します。それは 、善意の日です。その日、一部のムスリムたちは墓参りをします。ただ、墓参りをイ ドの一部とし、 礼的なものとしなないことは重要なことです。しかしながら、死と来世について想いを せることは常に重要なことです。こうした祝 の中であっても、神に真に仕える者は、死は常に り合わせであることを理解しています。死とは人生の一部であり、ムスリムは 世が最 的な住 つまり天国か地 の途中にある、一 的な滞在のであることを理解するのです。ラマダ ンは考察の であり、イ ドは祝 の です。しかし、行き ぎた富の せつけや物 主的なものは避けなければなりません。ラマダ ンにおいて内在していた有益性を 保したムスリムは、祝 の を感 し、それは神が私たちにそのご慈悲をお与えになる一つの方法であることを理解します。人生は に、困 と に ち溢れたものでもありますが、そこには神による 智、慈悲、そして赦しがあるのです。ムスリムは 神を称えつつ祝うことを められますが、人生を し、祝うことは、神による恩 の一つであることを して忘れてはなりません。

---

脚注:

1

サヒフ ムスリム

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/1777>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。